



来て・見て・触れて 中心市街地を**活性化**

来街者や居住者を増やし、中心市街地ににぎわいと活気を取り戻そうと、市民、事業者、市などが一体となって活性化に取り組んでいます。

今回は中心市街地活性化の取り組みを紹介します。





中心市街地 って？

中心市街地とは、商業、行政、居住などの都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統を育み、各種都市機能を培ってきた、まちの顔ともいべき地域のことを指します。

本市では、近鉄四日市駅周辺からJR四日市駅周辺までの地域を中心市街地としています。



中心市街地の現状

来街者は、 減少から横ばいへ

本市の中心市街地には近鉄四日市駅やJR四日市駅があり、公共交通の拠点として一大ターミナルを形成しています。また、この区域内は道路や駐車場などの都市基盤が整備されており、市役所、博物館、文化会館、公園、商工会議所など市民生活や市民活動を支える施設が立地しているほか、近鉄四日市駅周辺に県下最大規模の商店街が広がるなど、さまざまな都市機能が集中しています。

しかし、モータリゼーションの進展や郊外の大型商業施設の進出、人口の高齢化やライフスタイルの変化などを背景に、90年代以降は来街者が減少しています。

近年、高層マンションの建設や企業事務所の立地、商店街における各種イベントの開催、飲食店の増加などで、来街者の減少に歯止めがかかりつつありますが、往時のにぎわいが戻ったとは言えない状況です。

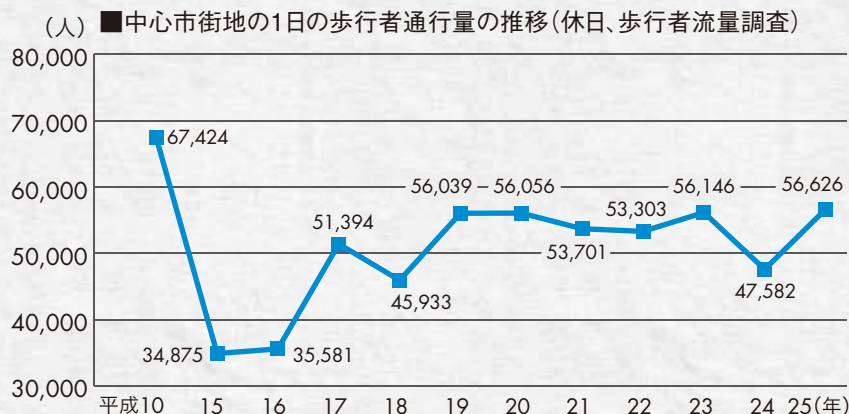
どうして活性化が必要？

都市機能が向上し、魅力あるまちづくりの拠点に

中心市街地には、交通手段や公共施設などのさまざまな都市インフラが整備されていることから、この既存の資源を有効活用し、市民生活や市民活動の拠点として生かしていくことが必要です。また、コンパクトなエリアにさまざまな機能が集約されているため、徒歩や自転車、公共交通機関で移動しやすい、人と環境にやさしいまちづくりも可能になります。

さらには、四日市を訪れる人が初めて目にするまちの顔であることから、中心市街地におけるにぎわいやおもてなしは、まちのイメージを高める、重要な要素となります。

このような観点から中心市街地の活性化に取り組んでいくことで、魅力ある都市の形成につながります。



これまでの取り組み

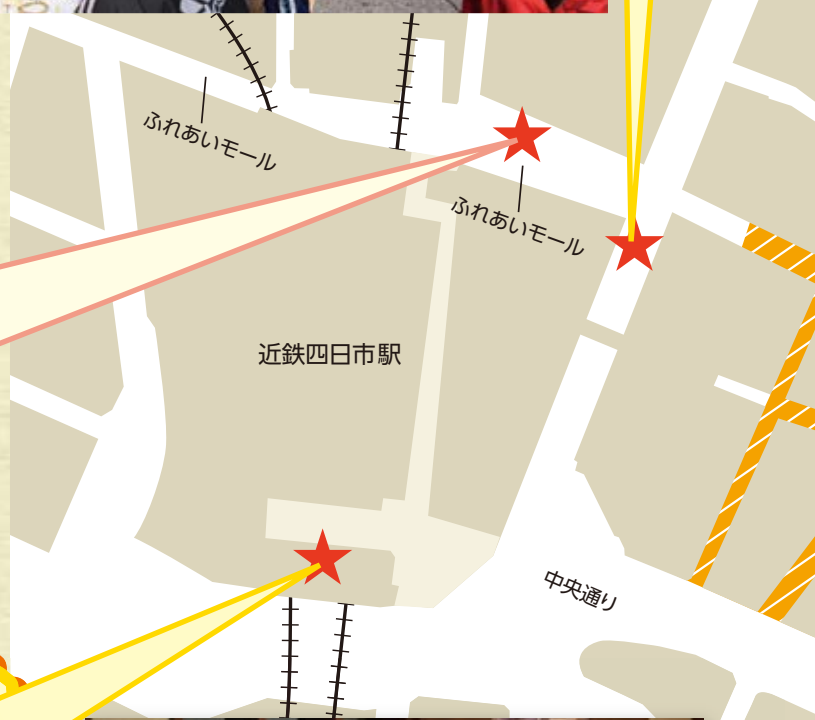
よっかいち YYストリートの開催

大道芸人のパフォーマンスや手作り市、グルメブースなどが出店する歩行者天国を、年2回、市道西町線の一部で開催しています。子どもと一緒に家族で中心市街地に行く機会として、毎回多くの人でにぎわいます。



ふれあいモールの 改修

近鉄四日市駅北口にあるふれあいモールの改修し、明るく、歩きやすい場所となるようリニューアルしました。「きれいになってベビーカーが押しやすくなった」という感想をいただきました。



よそみぢゃや お休み処四十三茶屋

近鉄四日市駅高架下の観光案内所をリニューアルし、本市の名産品である「かぶせ茶」が試飲できるコーナーを設け、本市を訪れた人を最初におもてなしするスペースとして設置しました。「マップや催し物などのお知らせが分かりやすく置かれているし、休憩できる椅子もあっていいですね」という感想もいただいています。

また、隣の市民窓口サービスセンターでは、土・日曜日、休日でも住民票など証明書の発行や、各種届出の受け付けを行っています。



四十三茶屋には、こにゅうどうくんのおへやもあります



明るくお出迎え (照明をLED化)

商店街でも、街路灯のLED化や点灯時間の延長、アーケードの部分改修などに取り組んでいます。商店街のお客さまや周辺住民の皆さんが安心して往来できる、明るい歩行空間を整備することで、おもてなしの向上と、環境に配慮した商店街づくりにつなげます。



朝から晩まで、一日中楽しめる商店街を目指して、活動を続けていきます

来街者の皆さんに喜んでもらいたい、四日市の入り口としてにぎわいの絶えない商店街にしていきたいという思いでさまざまな事に取り組んでいます。

四日市一番街
商店街振興組合
理事長
北岡 泰爾さん



昨年は、ふれあいモールの改修をきっかけに、商店街も環境に配慮した上で、明るく安心して歩けるように照明をLED化し、点灯時間も24時まで延長しました。周りにも波及してLED化が進んだので、皆さんから「明るくなって歩きやすくなった」と好評を得ています。

また、おもてなしの気持ちが伝わるように、ペナントや横断幕に『いらっしやい 1番街』と入れたり、駅から出た時に目に付きやすいように、アーケード入り口の看板もLED化しました。

他にも、さまざまなお店を揃えたり、各商店街が協力してイベントを企画・開催するなどして、ショッピングセンターとの差別化を図っていきたくと思います。

みんなが朝から晩まで楽しめる場所にしていくには、皆さんの参加が不可欠です。皆さんのお越しをお待ちしています。



これからも「安心・安全な街」を目指して月3回のパトロールを続けていきます



諏訪栄町・西新地
地区防犯協議会会長
林 悦男さん

夜間の防犯パトロールを始めて来年で10年になります。自治会・商店街のメンバーを中心に、警察や市とも連携して、曜日や時間帯を変えて、夏の暑さや冬の寒さの中でも、月3回まちの様子を見ながらの活動を続けています。

活動当初から警察にも協力してもらっているおかげで、大きなトラブルも無く続けられていることをありがたく思っています。

今後も、皆さんの協力を得ながら続けていきたいと思っています。



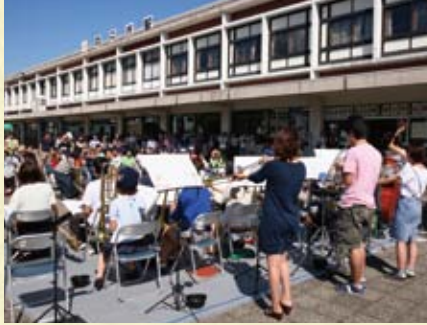
これまでの 取り組み

JR四日市駅前でのイベントを開催

四日市JAZZ フェスティバル

9月14日(日)のJAZZフェスティバルでは初めて演奏会場となりました。

晴天にも恵まれ、さまざまな音楽があふれた会場は大いににぎわいました。



四日の市

今年5月から、毎月4日にJR四日市駅前広場で行われている四日の市が、10月4日(土)に開催されました。

雑貨や青果、飲食店など約40の店舗が立ち並び、ミニライブも行われました。

開始当初からの出店者に伺ったところ、「イベント限定の商品も販売したりしています。お客さんとの距離が近くて、反応がダイレクトに返ってくるので張り合いがあります。出店者同士のつながりができるのも魅力の一つだと思います。」と話していました。



名前の通り、毎月4日に開催しています

四日市実行委員会会長
舘 則之さん

しばらく地元を離れていましたが、今年、新町にcafe MONACAというカフェをオープンし、地元に戻って四日市のことを考えるようになりました。

四日市は名前の由来にもなっているように「市のまち」なので、伝統ある市の文化・歴史を守りつつ、現代風にアレンジしていくことが、伝統の継承とまちの活性化に繋がると考え、イベントを立ち上げました。

自分たちが自発的に取り組み、楽しいと感じることを続けていく。この積み重ねが、地域全体の元気につながっていくのだと思っています。

だんだん出店者が増えています。これからも、出店者も参加者も楽しめるイベントとして続けていきたいと思っています。

これからの 取り組み

市道西町線の改修

ふれあいモールなどの改修に続き、近鉄百貨店とスターアイランドの間の道路(市道西町線)でも外灯などの舗道整備を進めています。



現在の市道西町線

JR 四日市駅の バリアフリー化

市政アンケートでも意見を寄せられることが多かったJR四日市駅のバリアフリー化について平成26年度末の完成を目指し、エレベーターの設置や多機能トイレ、内方線付点字ブロック、スロープなどの整備を進めています。



内方線付点字ブロック

近鉄四日市駅の西口広場の整備

多くの市民や市外から訪れる人が利用する近鉄四日市駅において、鉄道やバスなどの乗り継ぎ環境の改善を図るため、西口駅前広場の再整備を進めています。



乗り継ぎ案内板の設置

近鉄四日市駅の周辺において乗り継ぎ情報などを示した案内板の設置を進めています。



火災跡地の活用

平成19年9月に諏訪栄町内で発生した火災により空き地となっている所では、地権者が中心となって再開発に向けた検討が始まっています。

現在は、市の支援を受けて、事業構想の策定など、事前の調査が行われています。



港方面への案内板の設置

JR四日市駅周辺や、四日市港への回遊を促すため、まち歩きの回遊ルートを図で示した情報案内板の設置を進めています。

編集後記

今回の特集で、中心市街地ににぎわいを創出するためのさまざまな取り組みをお知らせしました。これからも、市民・事業者の皆さんと力を合わせて、活性化に向けた取り組みを続けていきたいと思えます。
(商業勤労課 上野、広報広聴課 丹羽)